

記 事

◎第6回理事会(昭.26.11.5)出席者: 稲浦, 立花両副会長, 今岡, 樺島, 富樫, 西松, 本間, 丸安, 米元の各理事, 協議事項: (1)昭和26年度土木賞委員会委員の常議員会に提案する候補者を次の諸氏すること。

吉田徳次郎, 松村孫治, 加藤正晴, 町田保, 小宅習吉, 内海清温, 千秋邦夫, 広瀬孝六郎, 最上武雄, 青木楠夫, 福田武雄, 小野竹之助, 大坪喜久太郎(北海道, 鷲尾蠟龍(東北)荒井利一郎(中部)石原藤次郎(関西)伊藤令二(中四)鷹部屋福平, 大西英一, 稲浦鹿蔵, 立花次郎, 本間仁, 仁杉 敏

(2)明年5月の総会は東京で開催することに決定, (3)日本学術会議会長から照会の Ford Foundation の Funds による米国会の留学候補者として, 吉川秀夫, 内田一郎, 小林利春, 友永和夫, 小野一良の諸氏を推薦することに決定, (4)日本学術会議における国際団体, 国際学術会議の調査に対する土木関係資料(1952年開催される土木関係国際会議)を学術会議に提出すること。

8th International Congress of Theoretical and Applied Mechanics 8月 (Istanbul)

4th International Congress of Bridge and Structural Engineering 8月 (Cambridge)

5th International Hydrological Congress 5月 (Monaco)

3rd International Commission on Irrigation and Drainage 9月 (Chicago)

Centennial of Engineering 1952 Convocation 9月 (Chicago)

以上の会議に学会代表者をおくることについて次回理事会で協議すること。

(5) International Association for Bridge and Structural Engineering に学会が加入すること, (6)法人税について西松理事において対策を講ずること, (7)会員の入退会を承認。

◎編集委員会(昭.26.11.19)出席者: 本間, 米元正副委員長外各委員及び中部支部から酒井氏(荒井委員代理)協議事項: (1)論文審査報告及び新原稿審査担当委員の決定, (2)討議を復活することとし討議依頼先を決定, (3)第37巻第1号登載論文を次の通り決定す。(4)その他編集に関する事項

藤井松太郎: 国鉄小千谷発電所工事について, 岡本舜三: 長柱の挫屈について, 成岡昌夫・米沢博: 鋼道路橋の鉄筋コンクリート連続版の曲げモーメントにつ

いて(2), 村田二郎: セメントペーストの癒着について, 岡田清: Pre Stressed Concrete の収縮とクリープについて, 合田健: 砂濾過の水理に関する一基礎的研究, 北郷繁: 気泡管の感度について, 松本有: 水中コンクリートのコアテストの一例。

◎第2回会館増築委員会(昭.26.11.7)出席者: 立花委員長, 大西会長, 稲浦副会長, 西松委員, 富樫, 今岡両幹事, 協議事項: 今岡幹事から経過報告があり, 西松委員から建設業者関係賛助費の集まり方を報告, 続いて11月末までに旧室の補修も終了する見込であるから, 理事会を12月5日に開き, 12月8日に増築披露会を開催することとする。その企画として, 会長の挨拶は印刷して土産物と一緒に各人に差し上げ, 一堂に会することを止め午後2時から4時までに自由に事務所を御覧願ひ「おでん, かん酒」で接待すること。

◎秋のエキスカージョン(昭.26.11.10~11両日)好天に恵まれ予定通り開催(別項記事参照)非常に盛会であつた。之れ一重に群馬県土木部当局及び東京電力KK建設部の絶大な御尽力と御援助によるものであつて, ここに謹んで感謝の意を表する次第である。

◎板橋三郎氏講演会(昭.26.11.21)先般欧米視察の旅から帰朝せられた板橋三郎氏に「欧米瞥見」と題する講演をJREIAと共催で, 国鉄8階映画室で午後2時から開催, 主として欧州事情について興味深いお話があり, 終了後同氏撮影の幻灯説明があつた。参加者約120名。

◎土質工学講演会(昭.26.11.30)日本土質基礎工学委員会では秋期講演会を日本大学において開催, 講演題目及び講演者は1号に発表するが聴講者約80名, 教室にあふれる位の盛況であつた。同講演会終了後2時30分から2台のバスに分乗して, 地下鉄建設工事の見学を行つた。

支 部 だ よ り

1. 中部支部 (1) 第8回幹事会(昭.26.11.6)奥田幹事長以下幹事14名出席, 議題: (a) 中部支部大会報告, (b) 11月見学会, (c) 12月6日研究会について, (d) 1月座談会, (e) 2月公開講演会, (f) 3月予定, (g) 寄附金について, (h) 特別員募集と納金について, (i) 米留学者の推薦, (j) 土木賞委員に荒井利一郎氏を推薦, (k) 支部配賦金について, (l) その他

(2) 第5回見学会(昭.26.11.23)出席者: 中部支部

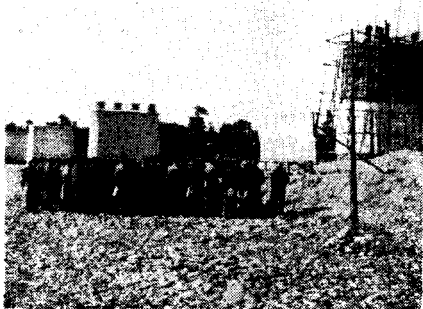
長以下 47 名、申込者は 86 名あつたがバスの定員の關係上制限した。見學経過：名古屋駅→有松町→半田市→河和町→師崎町（昼食）→野間町→大野町→名和町→名古屋駅前解散、見學概要：11月 23 日勤勞感謝のよき日のためか申込者殺到したが上記のように制限せねばならなかつたことは遺憾であつた。バスは名古屋鉄道KK黒田呂久三氏（中部營業局長，支部幹事）の御世話により，9時出発，見學の主目標は愛知用水計画の視察であつた。愛知用水とは水源の乏しい知多半島の田畑約 3 万町歩に木曾川の水を導く計画で，木曾川上流に貯水池を知多半島に最大 25m³/sec の水路を施設し農業用水と共に工業，水道用水を確保する目的である。一行は有松，半田，武豊を通過し海岸の風景を愛でつゝ師崎町に到着，昼食前に農林省木曾川調査事務所長千葉進氏から計画の大要の説明を得，立神支部長の挨拶，半田市助役の挨拶があつた。13 時 30 分師崎町を出発，車中で同用水の功勞者久野庄太郎氏の懇切な説明があり，16 時名古屋駅前に到着盛會裡に解散した。

2. 関西支部 (1) 土質工学講習會（昭.26.11.26.~27 両日桜の宮公會堂）講師及び題目は次の通りであつた。(a) 基礎の力学 伊藤富雄，(b) 土庄について 村山湖郎，(c) 土質調査と試験 松尾新一郎，(d) 基礎の工法 日野勝好，(e) 土工の機械施工 齋藤義治 (f) 大阪附近の地盤沈下 橋好茂，参加者第 1 日 208 名，第 2 日 156 名で非常に盛大であつた。

秋のエキスカーション（昭.26.11.10~11 両日）

10 日午前 11 時 15 分新前橋駅前集合。東京方面からの参加者は殆ど 8 時 15 分上野発の列車を利用，定刻までに 2~3 名を除き全員集合する。11 時 20 分 6 台の自動車に分乗，2 台の大型バスを中央にして出発近くの群馬大橋に向う。お年寄りも多い一行なので特に看護婦 1 名附添と云う用意周到ぶり。明方より氣遣われていた天候も漸く落ち着き，薄雲の間より暖い日射

写真一 群馬大橋にて



が一行の門出を祝福してくれる。利根川上に架設される国道 9 号線の群馬大橋は着々と工事が進捗して下部構造は 1 橋脚を残すのみ。松田土木部長及び山崎工事々務所長より工事概要を説明して頂き現場見學を行う。更に県庁裏の利根川災害復旧工事の現場視察を行う。真庭工事々務所長より懇切な説明をして頂いたが護岸基礎に簡易ケーソン工法を用いているのが目新しく感じられた。視察終つて昼食のため県庁に赴く。伊能知事わざわざ挨拶に来られ歓迎の辞と共に災害復旧その他土木工事の重要性を強調すれば大西会長一行を代表して府関係者の款待に対し謝辞を述べ，昼食を摂る。終つて 1 時 15 分県庁発一行は再び車を連れ，秋空にくつきり浮ぶ赤城の連峯を右手に利根川に沿つて北進，やがて渋川町に入る。途中の道路は僅か 2 車線位の砂利道でありながらよく整備されていて車体の振動も割に少ない。渋川を過ぎる頃から道は漸く峻しくなり屈曲も多くなつてくる。2 時 20 分箱島発電所に到着，小林建設所長の御説明により工事現場を視察本水路延長約 11km，発電水力最大 23 100kW の本発電所はその工事の大半を既に完了し 12 月 15 日の通水予定を目標に鋭意努力を重ねていた。3 時 15 分同所発更に本水路取水口に行く。取水口は既設原町発電所の直ぐ脇にあり，本水路取付と共に吾妻川堰堤を築

写真二 箱島発電所にて



造中である。現場関係者の御苦勞は堰堤の堤体に水路を縦貫させると云うような特殊な設計についても十分窺われる。4 時同所発，中之条町を経て一路四万温泉に向う。四万川溪谷の紅葉は丁度盛りで日脚の早い晩秋の夕陽に映えて

盛り沢山な第 1 日の日程を漸く終えて些か疲れ氣味の眼を楽しませて呉れる。4 時 50 分四万温泉着，積善館に入る。各自所定の室に到着き暫時休憩入浴により旅の埃を洗濯した後 6 時より晩餐會が開かれる。會場の關係で比較のお年寄りの方々の A 会場と若い人達の B 会場とに分れる。A 会場は大西会長 B 会場は富樫理事それぞれ司會のもとに開會された。職場は異なつても同じ土木に身を捧げる人々の心の触れ合う美しい一刻。A 会場が懐古談でもちぎれば B 会場は雄々しい理想に花を咲かせる。

翌 11 日 8 時 30 分 四万発, 往路を再び帰路にとり 渡川町で西に折れ, 伊香保を経て榛名を昇る。つらつ折りの山路は昇るにつれて眺望を恣にし過ぎ去つた伊香保の町が遙か眼下に見下せる頃, 赤城を始め子持, 小野子の山々眼前に聳え, 遠くは白雪に覆われた上越の連峯一望のうちに入り, 車中感嘆の声に満ちたまゝ 11 時榛名湖畔に到着。秋晴れに恵まれた日曜日なので 人も多く相当のにぎわいを呈していた。湖畔の茶屋で少憩後名物ワカサギの屋敷を済ませ, 記念写真を撮

写真-3 榛名湖畔にて記念撮影



る。12 時半湖畔発天神峠を越えて一路高崎駅に直。行 2 時前駅で解散した。尙有志十数名は更に高崎市郊外に聳え立つ白衣観音を参詣, 4 時頃高崎駅で解散した。参加人員 83 名参加者氏名は次の通り (敬称略)。

大西英一, 林泰造, 三木五三郎, 河内稔典, 吉野正範, 吉野伝作, 今井帰一, 粕谷逸男, 渋谷彦吉, 西野満男, 中山義昭, 木村曉生, 三浦邦雄, 福田武雄, 八十島義之助, 和田正男, 大宮宗三郎, 大竹邦平, 大浜喜正, 浦村淳己, 星楚和, 奥山幸雄, 西松醇厚, 池沢憲夫, 金井邦夫, 西田茂, 伊東升, 西尾辰吉, 住谷秀夫, 藤井虎男, 富樫凱一, 米元卓介, 丸安隆利, 山本英俊, 津田理, 平木馨, 山本邦一, 北室重治, 田中豊, 青木楠男, 平井教, 奥村敏恵, 安宅勝, 小西一郎, 友永和夫, 田中五郎, 村上永一, 谷藤正三, 田中賢哉, 国富忠寛, 兵藤直吉, 佐島秀夫, 後藤正司, 平井喜久松, 樺島正二, 今岡鶴吉, 近藤泰夫, 善如寺秀太郎, 松田勘次郎, 山崎義男, 眞庭清, 荒尾茂, 佐田一郎, 小野星光明, 山口総一, 柳坂寅三, 小林俊一, 肥後静彦, 福井豊, 井原秀彦, 前田一郎, 中川一美, 朝倉孝一, 堀内清次, 捧箸伴六, 三宅正夫

編 集 報 告

年末に当り編集部より編集事務に関して御報告申し上げます。会員皆様の絶大な御支援により学会の事務所も増築され編集部一同張切つて仕事をしております。

今年 1 年を省みますと昨年よりはあらゆる条件が改善されたとは云え, 春の紙饑饉, 秋の電力危機等色々苦勞もありましたが御蔭を以て無事切り抜けて参りました。会誌は発行通巻 580 頁となり大体昨年度と同じ位でありました。論文集は昨年度より懸案の 6 号を 8 月に, 更に 10 号, 11 号をこの 12 月に発行することが出来ました。本年中の受理原稿は 125 篇 (昭.25.12.20~昭.26.12.17) でその内会誌登載のものは報文 83 篇, 資料 17 篇, その他 12 篇となつて居ります。投稿原稿の内容は研究結果の発表は非常に多くありました。現場関係の皆様は御忙しいとは存じますが貴重な御経験をお互に活かす意味で今後活発な御投稿を切に御願致します。尙ニュースにつきましては学会誌を見て頂ければ我国土木界の動きはすぐ解るまでにしたいと思ひまして努力して来ましたが特に地方のニュースに関しては皆様の御尽力に恃む他なく, 各工事の起工, 進捗状況, 竣工等で御気付き次第各地方編集委員又は直接

編集部宛御知らせ下さるよう併せて御願致します。

来年の計画や方針につきましては 1 号に編集委員長より御挨拶があることになっておりますが大体次のようなことを計画しています。

1. 論文集の発行 既に 9 号でお知らせ致しましたように日発からの特別基金により, 差当り 3 月頃に別冊論文集を刊行し会員全部に無料配布する予定です。27 年度 (4 月以降) においては未だ具体的な本資金の利用方法が考えられておりません。

2. 会誌発行期日の繰上げ 本年度まで会誌は毎月 30 日発行となつて居りましたので皆様の御手元に届くのは翌月となり色々御迷惑な点もあつたのではないかと考えまして来年度より 15 日発行と致しまして遅くともその月中に御覧頂けるようにしたいと思います。

3. 会誌「討議」欄の復活 戦前行われておりましたように会誌又は論文集登載の論文について会員皆様の御批判, 御意見を伺う討議の欄を設ける予定です。

今年中皆様から頂いた御支援に対して厚く御礼申し上げます。学会誌が会員を結びつけると共に我が国土木學術の代表機関誌であるその使命を完うする為来年も一層の御協力を御願致します。

昭和 26 年 12 月 25 日 印刷 土木学会誌 定価 80 円

昭和 26 年 12 月 30 日 発行 第 36 卷 第 12 号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地 中 川 一 美
印刷者 東京都港区溜池町 5 番地 大 沼 正 吉
印刷所 東京都港区溜池町 5 番地 株式会社 技 報 堂

東京都中央局区内千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話和田倉(20)3945番

発行所 社 団法人 土 木 学 会 振替東京 16828 番